

新年を迎えて

年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、6月の大阪府北部地震や7月の豪雨、9月の台風21号や24号など、記録的な自然災害が相次ぎました。被害に遭われた皆様にご心からお見舞いを申し上げます。

さて、人工知能やIoT、ロボット技術等の高度化により、我々の生活は劇的に便利で快適なものになりつつあります。また、これらの技術の進展は、産業構造をはじめとする社会のあり方そのものを大きく変えようとしています。

そうした中、昨年は全ての校種の新学習指導要領が出揃い、小中学校では既に移行措置が始まりました。未だの創り手である子どもたちが、変化の激しい時代を生き抜く力を身に付けられるよう、学力の3要素を多面的・総合的に評価するため2020年から実施される「大学入学共通テスト」を念頭に置いた高大接続改革や、グローバル人材育成のための小・中・高等学校を通じた英語教育の強化など、時代の要請に応じた新しい京都府の教育を進めていかなければなりません。

そのためにはまず、学校における働き方改革を進めて教員の負担を軽減し、授業準備や自己啓発の時間を増やすことにより、教員の指導力をより一層高めていくことが重要です。教員の長時間労働が社会問題として大きく取り上げられるようになりましたが、京都府教育委員会におきましては、「働き方改革実行計画」や「部活動指導指針」を策定し、部活動の休養日の設定など具体的な取組をスタートさせました。昨年末には、「アクションプラン」として「教員の資質能力向上プラン」を新たに策定し、人材の育成や資質能力の向上を効果的・効率的に図るための方策を掲げたところです。

あわせて、新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICTを活用した授業スタイルやその他の効果的な活用方法についても実践研究を開始しており、今後はICT環境整備とともに取組を進めてまいります。

学力の向上を図る一方で、子どもの貧困、いじめや不登校などにもしっかりと対応していく必要があります。昨年4月に改定した「いじめ防止基本方針」や、昨年末に策定したアクションプラン「社会的自立に向けた不登校児童生徒支援計画」等に基づき、外部の専門家や機関とも連携しながら、子ども一人一人の気持ちに寄り添う丁寧な指導を行ってまいります。

府立学校にしましては、特別支援教育へのニーズの高まりに 대응し、井手町の新設特別支援学校の開校準備や向日が丘支援学校の改築に向けた基本構想の策定を進めているところです。また、府域でも特に急速に少子化が進む丹後地域において、地域に学校を残し、学校・生徒・地域をつなぐ「学舎制」のスタート、そして、3つの分校の優れた教育実践を引き継ぎ、生徒のチャレンジをサポートする新設高校の開校が来年の春に迫りました。「丹後の府立高校の新しいカタチ」に、どうぞ御期待ください。

また、本年4月に施行される改正文化財保護法では、文化財をまちづくりに活かしつつ地域総がかりでその継承に取り組むことを狙いとして、文化財の保存・活用に関する総合的な大綱を都道府県が策定できるようになりました。国内屈指の文化財を有し、文化庁の移転も控えた京都府として、率先して大綱の策定を進めることにより、京都府の文化財の魅力発信に努めてまいります。

本年も、市町（組合）教育委員会をはじめ関係機関と緊密に連携し、次代を担う子どもたちが幸せな未来を創り出せるよう、気持ち新たにしていって取り組んでまいります。「新しい京都府の教育」の推進に向けて、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに当たり、皆様のますますの御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

平成三十一年 元旦

京都府教育委員会

教育長 橋本 幸二